

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気動向指数（2009年9月）

発表日：2009年11月6日（金）

～基調判断が「局面変化」に上方修正。来月、もう一段階上方修正の見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ C I一致指数は6ヵ月連続で上昇。C I先行指数も大幅に上昇

09年9月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+1.3ポイントとなり、6ヶ月連続で上昇した。輸出の増加や在庫調整の進展等を背景として一致C Iは09年3月をボトムとして上昇しており、景気が回復基調にあることが示されている。内訳では、大口電力使用量が僅かにマイナスに寄与したが、その他の系列はすべてプラスに寄与した。特に、生産財出荷、投資財出荷、所定外労働時間などの寄与が大きい。

また、C I先行指数も前月差+3.2ポイントと、7ヶ月連続で上昇した。上昇幅もかなり大きい。景気の先行きを懸念する声は相変わらず多いが、C I先行指数からは、まだ景気減速のシグナルは出ていない。

○ 基調判断は「局面変化」に上方修正。10月分では「改善」へ上方修正の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、8月までの「下げ止まり」から「上方への局面変化を示している」へ上方修正された。上方修正は、5月分改訂値以来のことである。内閣府の定義によれば、「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す。」とされている。一致C Iからも、景気が回復局面にあることが改めて確認された。

この基調判断は、10月分でC I一致指数が前月差で僅かでも上昇した場合、「局面変化」から「改善」へとさらに上方修正される。C I一致指数の動きと強く連動する傾向のある鉱工業生産指数が、予測指数からみて10月も上昇する可能性が高いことを踏まえると、2ヶ月連続で基調判断の上方修正が行われる公算が大だろう。なお、内閣府の定義では、「改善」とは「景気拡張の可能性が高いことを示す」を意味するとされている。

